

減ってきてしまっているカエルの大合唱 ヒガシニホンアマガエル

4年前、ぼくは千葉から埼玉の草加市（埼玉県南東部）に引越した。移住してきて驚いたのが、5月頃から毎夜、物凄い音量で外から何かの鳴き声が聞こえてきたことだ。クワックワックワッ…とかなりうるさい。江東区育ちのぼくは、恥ずかしながらアマガエルの大合唱をその時初めて聞いた。インターネットでアマガエルの声について調べると「うるさすぎる」という、どちらかという迷惑がる声がよく書いてあった。ぼくはというと、「カエルの大合唱を家で聞くことができるなんて、なんて素晴らしいんだ！」と感動して、夜になると暑くも無いのに窓を開けて「カエルの唄」にうっとりするようになった。

それから4年が経ち、いまや我が家ではカエルの唄はほとんど聞こえなくなってしまった。空き地だった場所に次々にマンションや商業施設が建てられ、この辺りは一気に開発が進んだ。生活は便利になったが、この地域のアマガエルの絶滅に立ち会ってしまい、そして自分が住んでいる家が建てられた時もこんなことがあったのかもしれないと思って、何ともやり切れない気持ちになってしまった。

開発には比較的強いほうと言われるアマガエルさえこの状況だ。こんな風にして、今や日本全国でカエルたちの生息場所が減り続けている。とくに両生類は水辺が必須なので開発の影響を受けやすい。東京都の在来のカエル11種は、その全てが絶滅危惧種に指定されている。

この経験があってから、以前にも増して、絶滅する前に今いるカエルたちの姿を見ておきたいという思いが強くなった。ということで、ここ数年は“東京ガエル”を追い求めている。どのカエルも、インターネットで生息地情報を集めるたびに「昔はたくさんいたけど最近は見ない」という話が出てきて悲しくなる。

これまでにこのいきもの記では、猿江のアズマヒキガエルとニホンアカガエルや、東京都西部のタゴガエル、ナガレタゴガエル、モリアオガエル、そして今回のヒガシニホンアマガエルの計6種の「東京ガエル」を紹介してきた。とくに今年は「東京ガエル」探しに力を入れているので、これからも不定期で紹介していこうと思う。



ヒガシニホンアマガエル *Dryophytes leopardus* 埼玉県草加市 2022年4月30日
これまで日本のアマガエルは1種のみだったが、2025年に2種に増えた。おおよそ京都の西部より西側に生息している日本西部の個体群を今まで通り「アマガエル」と呼び、それより東側に生息している日本東部のものが「ヒガシニホンアマガエル」と新たな名前が付いた。外見上はほとんど変わらないが、DNAを調べた結果両者の違いが明らかになった。この写真は埼玉だが、東京にも生息している。ただし区部では少ない。



田んぼのあぜ道にいたペア

2022年5月3日



間もなく上陸しそうな幼生

2022年6月25日



上陸したばかりの幼体

2025年7月5日



体色がグレーの個体

周囲の色に合わせて体色が変わる。

2023年5月14日



鳴のうを大きく膨らませるオス

オスは顎の下をかなり大きく膨らませ、大きな音を出す。

2022年5月3日